20025

PCIにおけるステント強調ソフトと血管内イメージングの比較及び関係についての検討

[1]公立学校共済組合　関東中央病院、[2]公立学校共済組合　関東中央病院

鈴木　雅己[1]、伊藤　敦彦[2]、藤井　弥生[1]、前田　晋佑[1]、杉下　靖之[2]

【背景・目的】ステント強調ソフト「CLEARstent」は、撮影済動画からステント強調画像を作成する画像支援ソフトであり、よくステントとバルーンの位置関係を把握する目的で使用される。血管内イメージング（IVUS、OCTなど）とは画像が違うため別の情報として認識されるが、上記以外の様々な場面での使用により両者の接点を見出せたため報告する。【方法】当院PCIにて「CLEARstent」と血管内イメージングを使用した症例に対し、場面ごと（KBT、ステント圧着不良対応など）の有用性及び関係性について検討した。詳細はポスターにて。【結果】「CLEARstent」により場面に応じた有用な情報が得られ、「CLEARstent」GuideによるPCIを行うことが出来た。また１症例あたりの血管内イメージングの回数を減らすことが出来た。【考察】ステント強調自体でも有用であるが、血管内イメージングを加味しながら使用する事により、さらに有用な情報となり様々な場面での使用が可能になると考えられる。「CLEARstent」は簡便に行える点、コストがかからない点で有用であるが、PCIの最終確認など重要な場面には血管内イメージングを用いるべきであり、その合間の情報を埋めるのが「CLEARstent」の役割であると考えられる。【結語】「CLEARstent」はPCIの場面に応じた様々な情報を与えてくれる。また血管内イメージングとの併用によりさらに有用な情報となる。